

審議会等会議録

(敬称略)

会議の名称	令和6年度第1回加須市在宅医療・介護連携推進委員会（書面審議）
開催日時	【書面審議通知日】 令和7年3月17日（月） 【議決日（書面決議日）】 令和7年3月31日（月）
開催場所	－
議長氏名	武正寿明
出席委員	【書面審議を通知した委員】 武正寿明、松村卓哉、湯橋崇幸、篠崎浩之、加藤誠、福島祐一、川俣和美、新井裕之、石川誠一、渡邊英治、青木吉次、正能好子、石川安則、尾高幸江、田島恵梨香、木村美喜、野呂牧人、中島謙悟、地主光枝、川島三枝子、橋本将来、田崎博己、田沼佐知子、小松拓哉、民部田美保、近藤るみ子、中村未央、国分菜穂子、森田次郎、坪井忠美
欠席委員	－
会議次第	1 報告事項 （1）認知症初期集中支援チームの活動状況等について （2）令和6年度における「人生会議」の普及啓発の実施状況について （3）加須市マイエンディングノートの作成について （4）令和6年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（いきいき長寿保健事業）について （5）がん患者ウェルビーイング支援事業について （6）北彩あんしんリング運用ポリシーの改定について
会議資料の名称	資料1 認知症初期集中支援チームの活動状況等について 資料2 令和6年度における「人生会議」の普及啓発の実施状況について 資料3 加須市マイエンディングノートの作成について 資料3－1 加須市マイエンディングノート縮小版 資料4 令和6年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（いきいき長寿保健事業）について 資料5 がん患者ウェルビーイング支援事業について 資料6 北彩あんしんリング運用ポリシーの改定について
会議の公開又は非公開の別	公開
傍聴者の数	－

説明者の職・氏名 (書面回答対応者)	福祉部高齢介護課長 高瀬郁子、同課主幹 松本知之 健康スポーツ部いきいき健康医療課長 荒井幸子、同課主幹 栗原香
事務局職員職・氏名	同上
会議録の作成方法	要点記録
その他必要な事項	なし

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
	報告事項 【書面による意見等】
尾高委員	(1) 認知症初期集中支援チームの活動状況等について 初動日数の 35.4 日に対し、支援日数の 78.1 日について ① 初動日数の中に支援につなげる為の電話連絡等が入っていないのですか。もし、入っていないとしたら、努力が足りないものかも知れないと思います。 ② 家族の協力が左右する旨の言葉は、地域に根ざした活動を行っている民生委員としては、何かお手伝いできることがあったのではないかという思いがあって残念です。
事務局回答	① 初動日数につきましては、把握日から初回訪問日までの日数を指し、初回訪問の前に電話等で相談を受け、状況の確認や助言を行うなどの対応を行っております。また、認知症の方やそのご家族の状況によっては、支援を受け入れるまでに時間を要し、慎重に関係性を築くことが必要な場合もありますので、できる限り早期に支援につなげられるよう努めてまいります。 ② 初動日数にご家族の協力が左右されるという点につきましては、ご家族自身が問題として認識していない場合があります、訪問につながりにくいという課題がございます。そのため、初回訪問までに時間を要するケースが生じております。民生委員の皆様には、早期の情報提供やご家族への声かけを通じて支援の受け入れを後押ししていただくことで、スムーズな初動につながる可能性が高まります。今後とも、支援チームの活動を支える「地域のつなぎ役」として、ご協力をお願いいたします。
川島委員	(1) 認知症初期集中支援チームの活動状況等について ・初期集中の事例として該当するものがあったとしても、会議の開催を待たずにセンターとして動き始めている事例では会議に提出する意義がないと感じるものもあります。 ① 事例発生時に随時会議を開催できる方法を検討して欲しい。 ② 働き方改革の面や移動時間を省くため、オンライン開催やMC Sでの開催はどうでしょうか。
事務局回答	① 事例発生時の随時会議開催につきましてのご要望は理解しております。しかし、助言者や関係機関との調整が必要となることから、随時の会議開催は難しい状況にあります。そのため、現状では定例会議を軸に、必要に応じて個別の連絡調整や情報共有を行う体制をとっております。また、緊急性が高い事例につきましては、定例会議を待たずに関係機関

	と迅速に対応できるようなフローを検討するなど柔軟な支援が行えるよう検討してまいります。 ② 認知症初期集中支援チーム員会議は、専門職が集まり、対面で意見交換を行うことで、より深い議論や多角的な視点での検討が可能となることを重視しております。そのため、現時点では対面での会議を継続する方針としております。また、対面での会議では、微細な表情や反応を確認しながら意見を交わすことができるため、より円滑な合意形成や実効性のある支援計画の策定につながると考えております。
中村委員	(1) 認知症初期集中支援チームの活動状況等について ・会議が2ヶ月に1回の開催にて初期対応というより、開催時期にタイミングが合えば事例提出となるような方法の検討をお願いしたいです。 ・川島委員への回答①と同様
事務局回答	
近藤委員	(1) 認知症初期集中支援チームの活動状況等について ・支援チームが関与したケースが8件ということで、その具体的な内容を知る機会があれば、評価が委員会としてもできるのではないかと思います。 ① 全国平均より多く、国の目標値も上回ったというが、その中身を知りたいです。 ② また、高齢者相談センターが受けた相談件数で、令和5年で15件あれば、83件というところもあるので、その差については、どう考えていますか。
事務局回答	①認知症初期集中支援チームの定期的な会議にて継続的に事例を検討し、医療や介護サービスへのつながりが円滑に進んだことが、国の平均を上回る結果に繋がったと考えています。 ②認知症に関する相談件数の差については、地域特性や住民の意識、高齢者相談センターの体制、関係機関との連携状況など、複数の要因が影響していると考えております。相談件数が多い地域では、住民への認知症に関する周知活動が積極的に行われており、関係機関との連携が強化されている可能性があり、住民が早期に認知症に関する相談をしやすくなっていると考えられます。 一方、相談件数が少ない地域については、住民が認知症に関する相談をためらう傾向があることも考えられるため、相談しやすい環境づくりや、認知症の早期発見・気づきを促す啓発活動をさらに強化し、地域全体で支援の輪を広げていけるよう努めてまいります。

松村委員	(2) 令和6年度における「人生会議」の普及啓発の実施状況について ・ACPを知らない方達への理解を、しっかり得られている結果となっている。一方で参加者が高齢者主体であり、40代から60代の参加率を増やしたい。
事務局回答	・ACPについては、受講者の8割近くの人に理解いただいておりますので、引き続き普及啓発を行ってまいります。また、受講者については、高齢者の方が多いので、幅広い年代の方も参加できるよう考えてまいります。
野呂委員	(2) 令和6年度における「人生会議」の普及啓発の実施状況について ・医師会の先生方には、ACPの普及活動に積極的に取り組んでいただいております、引き続きお願いいたします。高齢者相談センターだけではなく、様々な窓口を通じて今後も何かのイベントとコラボするなど、受講者増加の工夫が必要だと感じました。
事務局回答	・ACPをご担当いただいている先生方には、熱心な講義を行っていただいております、引き続きお願いしてまいります。また、受講者増加に向けて、参加しやすい環境を整えながら実施していきたいと考えます。
国分委員	(3) 加須市マイエンディングノートについて ・マイエンディングノート作成は、とてもよい事業と考えます。
事務局回答	・必要な方の手元に届くよう、普及してまいります。
民部田委員	(3) 加須市マイエンディングノートについて ・表題名を「マイエンディングノート」とした理由をお聞かせ下さい。また、県医師会より配布する「私の意志表示ノート」とのリンクもできると良いと思いました。
事務局回答	・自身の人生の最期に関する思いや希望を記録するためのノートであることに由来いたしております。「私の意志表示ノート」と共に活用していただければと考えます。
野呂委員	(3) 加須市マイエンディングノートについて ・良い取組だと思います。自由記載なのであっても問題ないと思いますが、5章財産はページとして必要があるか今後検討しても良いのではないかと思います。
事務局回答	・今後の検討材料とさせていただきます。
小松委員	(3) 加須市マイエンディングノートについて

事務局回答	・加須市マイエンディングノートの周知案内を高齢者相談センターとしてどのように行っていくかが課題と感じています。死を扱うものなので、気をつけていきたいと思います。 ・皆様方への対応をよろしくお願いいたします。
近藤委員	(3) 加須市マイエンディングノートについて ・マイエンディングノートについては、よい取り組みと思いますが、どれだけの人が知っているのですか。例えば、民生委員が配布できる気軽さがあってもいいのではないのでしょうか。
事務局回答	・市の広報紙やホームページ等のSNSを活用した周知に加え、各コミュニティセンターをはじめとする公共施設等にポスターの掲示やチラシを配架するほか、地域のイベントや集会等でのPR、また、自治協力団体や民生委員等の地域ネットワークを生かした周知や、高齢者相談センターの職員の訪問等での周知にも努めるなど、あらゆる手段を活用して周知に努めてまいります。
松村委員	(4) 令和6年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチは出来ているが、その後の改善策を教えてください。
事務局回答	・いきいき長寿保健事業の評価といたしましては、ポピュレーションアプローチ支援では、アンケート結果から、「フレイルの認知度」は、6割を超えており、フレイルについて普及啓発を図ることができました。ハイリスクアプローチ支援として実施した低栄養予防指導においては、介入できた者の97.9%(R3~R6)が体重増加または体重を維持することができました。また、生活習慣病重症化予防支援(受診勧奨)では、約半数の者はかかりつけ医による経過観察ができており、20.8%(R6)が介入により医療機関受診につながりました。一方で、口腔機能低下予防支援については、自覚的に口腔機能に何かしらの支障を感じている者は多いものの、フレイルを知っている者や受診行動に結びつくものは少なく、自身の口腔に対する関心が低く指導に至らない者が多く口腔リテラシーの低さが課題であります。今後もフレイル予防や重症化予防について情報共有し、医療・介護の関係機関の皆様と連携・協力を図り、事業を進めてまいりたいと考えます。
近藤委員	(4) 令和6年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について ・フレイル予防については、取り組みを進めるべきと思いますが、認知症の人の病気による「失行」や「失認」については、初期の場合は、一

事務局回答	定の効果はあるが、中期以降は機能訓練が認知症を進行させてしまうので、そういう点は誤解しているデイサービスもあります。一般的認識としても誤解が多いと思います。認知症の場合は、専門ケアを行う認知症対応型デイサービスが好ましいです。 ・ ご意見ありがとうございます。 ・ 認知症初期においては、適切な機能訓練が有効とされており、身体機能の維持や認知機能の活性化につながる場合があります。一方で、中期以降になると、過度な訓練が本人にとってストレスとなり、不安を引き起こすことがあり、その結果、認知症の症状が悪化する可能性も指摘されております。しかし、すべての機能訓練が悪影響を及ぼすわけではなく、本人の状態に応じた適切な支援が重要であると考えております。そのため、中期以降では、本人の負担や不安を考慮しながら、無理なく日常生活を支えることが大切となります。特に、認知症に関する専門知識を持った職員が対応する認知症対応型デイサービスを活用することで、適切なケアが受けられ、本人の安心感が高まるとともに、ご家族の負担軽減にもつながると考えております。今後も、認知症の進行段階に応じた適切な支援の重要性を周知し、地域の皆様が安心してサービスを利用できる環境づくりを進めてまいります。
松村委員	(5) がん患者ウェルビーイング支援事業について ・ ウェルビーイングとして外見の変化を補完する用品購入に助成が限られていますが、市民から他の要望は出ていますか。
事務局回答	・ アピアランスケア用品につきましては、ウィッグ等と乳房補整具等に区分が分かれております。ウィッグ等については、ウィッグ、頭皮保護用ネット、ウィッグ付き帽子、その他頭部の脱毛を補うために着用するものが助成対象となっております。また、乳房補整具等については、補整下着、パッド、人工ニップル、人工乳房（乳房再建術等によって体内に埋め込まれたものを除く。）、エピテーゼ、その他乳房の変形を補整する機能を有するものが助成対象となっております。現時点において、市民よりアピアランスケア用品以外の助成要望はございませんが、今後もアピアランスケア支援について、関係機関の皆様と連携・協力を図り、事業を進めてまいりたいと考えます。
民部田委員	(5) がん患者ウェルビーイング支援事業について ・ 若年者在宅ターミナルケア支援については、とてもありがたい支援だと思っています。周知させて頂き、利用される方が少しでも安心して生活されるとよいです。アピアランスケア支援についても同様ですが、実

事務局回答	績数も増加されており、とても必要な支援だと感じています。男女比やどの年代の方の利用が多いのかも可能な範囲で御教示いただきたいです。 ・アピアランスケア支援事業の申請者の内訳といたしましては、３３件中すべて女性となり、年代については、６０代から７０代の方の利用が多い状況でございます。今後もアピアランスケア支援について、関係機関の皆様と連携・協力を図り、事業を進めてまいりたいと考えます。
青木委員	（５）がん患者ウェルビーイング支援事業について ・フランスで議論された乳房再建の医療保険適応可否については、国内メディアでも報道された。患者らが不安視するなか、本市でアピアランスケア支援事業が継続されてゆくことは、意義深いと感じます。
事務局回答	・ご意見ありがとうございます。
坪井委員	その他ご意見 ・加須市の医療、保健、福祉等の支援事業に対し、高齢社会に必須な施策であり継続的な普及啓発をお願いします。加須市でも救急需要及び救急搬送困難事例の増加が懸念されています。特に各支援事業のサポートチームや関係者との連携が救急業務の迅速化、円滑化に繋がりますので、引き続き協力体制をお願いします。